

全国学力・学習状況調査について

泉佐野市立第二小学校
校長 池本 勝利
学力向上担当

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成 30 年 4 月 17 日（火）

3. 調査の対象

小学校第 6 学年，全児童
実施児童数（110 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況である。
平均正答率（本校 69／泉佐野市 67／大阪府 68／全国 70.7）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況である。
平均正答率（本校 57／泉佐野市 51／大阪府 52／全国 54.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などをあげながら筋道を立てて話すことについては、よくできている。 1 図書館への行き方の説明として適切なものを選択する。(94.5/90.8)</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。 5 【春休みの出来事の一部】の中で---部と---部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す。(27.3/35.5)</p>	<p>○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことについては、よくできている。 6 慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する(心を打たれる)。(90.9/90.4)</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことについては、国に比べ正答率が低く、課題がある。 8オ 文中で漢字を使う(せつ極的)。(41.8/51.4)</p>

国語B	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることについては、概ねできている。 1一 【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する。(87.3/82.5)</p> <p>○計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることについては、概ねできている。 1二 【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する。(80.9/77.5)</p> <p>【話すこと・聞くこと・書くこと】 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題がある。 1三 これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、□□を書く(34.5/33.8)</p> <p>【書くこと】 ○目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることについては、国に比べてよくできている。 2一 「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に「□□」のように書</p>	<p>いた理由として適切なものを選択する。(62.7/57.6)</p> <p>○目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。 2二 【おすすめする文章】の□□に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く。(18.2/13.5)</p> <p>【読むこと】 ○目的に応じて、複数の本や文章などを進んで読むことについては、国に比べてよくできている。 3一 山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する。(60.0/49.4)</p> <p>【読むこと・書くこと】 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことについては、国に比べて正答率が低く、課題がある。 3二 【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】□□最も心がひかれた一文とその理由の文章の□□□□に入る内容を書く。(41.8/52.3)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
58 調査問題の解答時間は十分でしたか。国語A A 時間が余った	30.0	44.1	○	14.1
59 調査問題の解答時間は十分でしたか。国語A A やや足りなかった	29.1	20.5	◇	8.6

○選択肢のある問題に比べ、記述式の問題の無回答率が高くなる傾向がある。苦手意識があり、最初からあきらめてしまうことが予想できる。苦手な問題にも根気よく向かおうとする姿勢を育てることが必要である。

○文章を書くことに対する苦手意識を取り除くために、普段から文の長短を問わず、「書く」活動を多く取り入れるようにする。

○学習状況調査結果より、国語Aの「解答時間は十分」だと感じていない児童が多い。設問の意図や問題文の内容を正しく読みとる力が弱く、その結果、長い時間を費やしてしまっていることも考えられる。「読む」力を育てるために、音読の練習や文章に親しめる読書についても意欲的に取り組める時間を確保できるようにしたい。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況にあるが、全国と比べて上位層がやや多い。
平均正答率（本校 65／泉佐野市 62／大阪府 63／全国 63.5）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況にあるが、全国と比べて中間層が多く、上位層がやや少ない。
平均正答率（本校 49／泉佐野市 48／大阪府 51／全国 51.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】</p> <p>○除法で表すことができる二つの数量の関係を理解し、数直線上に表すことが全国平均を上回ってきている</p> <p>1（2）数値を、与えられた数直線上に表すことができる (74.5/66.7)</p> <p>○小数の除法の意味について理解し、立式することに課題がある</p> <p>2 答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ (36.4/39.9)</p> <p>【量と測定】</p> <p>○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方はよく理解できているが、単位量あたりの大きさを求める除法の式を立式し商を求めることは、全国平均と同程度ではあるが課題が残る</p> <p>4（1）面積がそろっているアとイの二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ (88.2/87.8)</p> <p>4（2）ウとエの二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ (50.9/50.1)</p> <p>○180°の角の大きさを理解している</p> <p>5（1）角\odotの角の大きさが、何度であるかを選ぶ (94.5/94.4)</p>	<p>【図形】</p> <p>○円周率の意味理解に課題がある</p> <p>円周率を求める式を聞かれているにもかかわらず、円周の長さ×直径の長さの式を選び誤答となる児童が多い</p> <p>7（1）円周率を求める式として正しいものを選ぶ (36.4/41.6)</p> <p>【数量関係】</p> <p>○百分率を求めることができる割合は全国平均に比べると低くはないが、基にする量と比べられる量を逆にしてもとめていると考えられる誤答の割合が21.8%と高くなっている</p> <p>8 200人のうち80人が小学生の時、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ (56.4/52.9)</p> <p>○折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる正答率は64.5%と低くはないが、無回答率が15.5%と全国の7.2%に比べて高くなっている</p> <p>9 示された事柄が両方あてはまるグラフを選ぶ (64.5/63.6)</p>

算数B	特徴がみられた設問	
<p>【数と計算】</p> <p>○示された考え方を解釈し、条件に合う時間をもとめることは全国平均を上回る理解度があるが、他の数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することには課題がある</p> <p>2 (1) 全体で使える時間の中で「ルールの説明」に使える時間は何かを書く (75.5/70.0)</p> <p>2 (2) 1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める (41.8/47.9)</p> <p>【量と測定・数量関係】</p> <p>○おり紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連づけ、根拠を明確にして記述する力に課題がある</p> <p>5 (1) 横の長さが7mの黒板に輪飾りをつけるために必要なおり紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く (42.7/43.2)</p>	<p>【数量関係】</p> <p>○日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることに大きな課題がある</p> <p>3 (1) メモ1とメモ2はそれぞれグラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く (20.0/20.7)</p> <p>3 (2) 一つの事象についてあらわした棒グラフと帯グラフから読みとることができることをまとめた文章にあてはまるものを選ぶ (21.8/23.9)</p> <p>【図形】</p> <p>○図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを理解し記述する力に課題がある</p> <p>1 (2) 一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを元に書く (40.0/48.2)</p>	

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
60 調査問題の解答時間は十分でしたか。算数A 時間が余った	32.7	45.1	○	12.4
61 調査問題の解答時間は十分でしたか。算数B やや足りなかった	38.2	26.8	○	11.4

○基本的な問題はよくできているが、出題形式が違ったり、問題文が長くなったりすると、正答率が下がる。応用問題に慣れていく必要がある。

○比べられる量と基にする量を読み取って立式するなど、文章を基に立式したり、図に表したりする力が弱い。授業内に取り組んでいる四則計算の問題だけでなく、文章問題を確実に読み取る力をつけていく必要がある。

○記述式の問題の正答率が低い傾向があるので、授業の中で選んだ答えの理由を文章で書いたり、自分の考えたことを文章で書いたりして、考えを書く力をつけていく必要がある。

○問題の後半には、正答率は下がらないものの無回答率が上がる傾向にあり、解答時間の不足が考えられる。基礎問題を素早く解いたり、できる問題から取り組んだりするなど、総合問題に取り組む姿勢を指導する機会を設ける必要がある

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況にあるが、全国と比べて中位層がやや多く、下位層がやや少ない。
平均正答率（本校 61／泉佐野市 57／大阪府 57／全国 60.3）
- ・主として「活用」に関する問題より、主として「知識」に関する問題の方が平均正答率は高かった。
主として「知識」に関する問題（本校 80／泉佐野市 77／大阪府 75／全国 78.0）
主として「活用」に関する問題（本校 57／泉佐野市 53／大阪府 53／全国 56.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特徴がみられた設問	
<p>【生命】 ○骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解することは概ねできている。 1（3）腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く。(80.9/79.4)</p>	<p>【地球】 ○流されてきた土や石を積もらせる水の働きについて、科学的な言葉や概念を理解することは概ねできている。 2（1）流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ。(86.4/83.6)</p>	

理科「活用」	特徴がみられた設問	
<p>【生命】 ○ひなの様子を観察する方法については概ね理解しているが、人の腕が曲がる仕組みについて、筋肉と伸び縮みと腕の曲がり方の関連性を正しく理解することに課題がある。 1（1）野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ。(84.5/82.1) 1（4）人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ。(47.3/56.6)</p> <p>【地球】 ○流れる水の働きに関する知識はあるが、資料の分析力や自分の考えを記述する力に課題がある。 2（2）流れる水の働きによる土地の侵食について自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ。(60.9/55.4) 2（3）一度に流す水の量と棒の様子との関係から大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。(18.2/20.1)</p>	<p>【物質】 ○海水と水道水を区別する方法については概ね理解しているが、実験を通して導きだす結論を書くことに課題がある。 4（2）海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ。(94.5/89.4) 4（4）食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く。(30.0/35.9)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
48 自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。当てはまる	28.2	37.2	○	9
49 観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。当てはまる	32.7	43.6	○	10.9
50 観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。どちらかといえば当てはまらない	34.5	23.8	○	10.7

5 1 今回の理科の問題について文章などで書く問題についてどのように回答しましたか。全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	67.3	77.3	○	10
5 2 5年生の時、理科の授業が面白いと思いましたが。あまり思わなかった	15.5	8.8	◇	6.7
5 4 今、社会のことがらや自然のことがらに「不思議だな」「おもしろいな」などと思いませんか。時々思う	30.0	39.3	◇	9.3
5 5 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いませんか。どちらかと言えば当てはまらない	29.1	19.0	○	10.1
5 6 5年生までに受けた授業で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表していたと思いませんか。	13.6	23.5	◇	9.9

○主として「知識」に関することは概ねできているが、主として「活用」に関することでは、問題を把握する力、資料と資料・資料と考えを結びつける力、自分の考えを記述する力に課題がある。観察や実験、知識を活用する問題を通して、これらの力を高めていく必要がある。

○「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。」という点で、「努力した」と回答した児童の割合が全国平均より低い。書く問題では諦めてしまう傾向にあるので、あきらめずに最後まで書こうとする力をつけるとりくみ行う必要がある。

○観察や実験を行う際、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てること、観察や実験の結果をからわかったことを自分の言葉でまとめること、自分の考えがうまく伝わるように発表を工夫することに課題がある。観察や実験を行う際は、これらのこと積極的に取り入れていく必要がある。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<p>○地域の大人との関わりが少ない。</p> <p>○新聞を読んでいない</p> <p>○朝起きるのが遅いので食べていない</p> <p>○寝起きが一定ではない。何時に起きようと寝ようと計画はしていない。</p> <p>○放課後の過ごし方については、塾に通う児童が多くいる一方、家で家族とゆったり過ごす児童も多くいる。</p> <p>○土曜日の午後は月1回授業があるからか、塾等で学習する児童が増えた。</p> <p>○地域や社会で起こっている出来事に関心が低く、参加率も低い。</p>	<p>○地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか。 ・ある<28.2/41.6></p> <p>○新聞をよんでいる。<11.9/19.9></p> <p>○朝食を食べています。<87.3/94.5></p> <p>○同じ時刻に寝ている <71.8/77></p> <p>○同じ時刻に起きている <77.2/88.8></p> <p>○放課後に何をして過ごすことが多いですか。 ・家で勉強や読書をしている <47.3/64.1> ・放課後子ども教室や放課後児童クラブ（学童保育）に参加している。<1.8/7.0> ・学習塾など学校や家以外の場所で勉強している。<40.9/32.2> ・習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている。<55.5/46.5> ・スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている。<34.5/47.2> ・家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている。<86.4/81.0> ・家族と過ごしている。<58.2/67.1> ・友達と遊んでいる。<69.1/74.5></p> <p>○週末に何をして過ごすことが多いですか。 ・学校で授業を受けている <27.3/14.8> ・家で勉強や読書をしている。<41.8/58.1> ・学習塾など学校や家以外の場所で勉強している。<24.5/16.1> ・習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている。<30.9/25.7> ・スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている。<35.5/43.4></p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか。 ・あてはまる <38.2/62.7></p> <p>○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。 ・あてはまる <58.2/63.8></p>

		<p>○地域や社会を良くするために何をすべきかを考えたことがありますか。</p> <p>・あてはまる〈41.8/49.9〉</p>
【家庭学習の様子】	<p>○家庭によって勉強時間の差が大きい。</p> <p>○読書の時間は短くなっている。</p> <p>○自分で計画して学習を進める力や経験が乏しい。昨年度と同様である。</p>	<p>○学校の授業時間以外に、普段、一日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。</p> <p>・1～2時間〈29.1/36.9〉</p> <p>・全くしない〈7.3/2.5〉</p> <p>○学校の授業時間以外に、普段、(月曜日～金曜日)、一日あたりどれくらいの時間読書をしますか。</p> <p>・30分～1時間〈14.5/21.8〉</p> <p>・全くしない〈26.4/18.7〉</p> <p>○計画を立てて勉強している〈60.9/67.6〉</p> <p>○予習復習をしていますか〈35.4/62.6〉</p>
【学校での学習の様子】	<p>○嫌いな傾向にある。</p> <p>○嫌い故に意味を考えて取り組めていない。</p> <p>○あきらめてしまうのが早い。</p> <p>○これまでの授業を通して理科に興味を持って取り組んだり、大切さを感じたりするまでには至っていない。</p> <p>○授業を積極的に取り組めていない。</p> <p>○話し合い活動で考えを深め広げるまでには至っていない。</p>	<p>○算数の勉強は好きですか。</p> <p>・あてはまる〈52.8/64〉</p> <p>○算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。</p> <p>・あてはまる〈70.9/80.4〉</p> <p>○算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えていますか。</p> <p>・あてはまる〈71.8/78.4〉</p> <p>○算数の授業で解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。〈73.7/85.8〉</p> <p>○今回の算数でどのように解答しましたか。</p> <p>・がんばった〈60.9/70.6〉</p> <p>・あきらめた〈37.3/26.9〉</p> <p>○理科の勉強は大切ですか。〈78.2/85.4〉</p> <p>○理科の実験で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと思いますか。〈66.4/72.9〉</p> <p>○理科の授業では、予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。〈65.5/75.2〉</p> <p>○理科の授業で観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかをふり返って考えていますか。〈53.6/68.1〉</p> <p>○5年生の時、理科の授業がおもしろいと思いましたか。〈82.7/87.5〉</p> <p>○社会や自然で不思議だな・おもしろいなと思いますか。〈75.5/82〉</p> <p>○5年生までに受けた授業では、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。〈66.3/76.7〉</p> <p>○話し合い活動で考えを深めたり広げたりできていますか。〈71.8/77.7〉</p>

	<p>○時間が足りていない。</p>	<p>○国語Aの解答時間は十分でしたか。 ・時間が余った〈30.0/44.1〉 ・やや足りない〈28.1/16.8〉</p> <p>○国語Bの解答時間は十分でしたか。 ・時間が余った〈34.5/40.3〉 ・やや足りない〈29.1/20.5〉</p> <p>○算数Aの解答時間は十分でしたか。 ・時間が余った〈32.7/45.1〉 ・やや足りない〈28.2/15.8〉</p> <p>○算数Bの解答時間は十分でしたか。 ・ちょうど良かった〈20.0/28.9〉 ・やや足りない〈38.2/26.8〉</p>
--	--------------------	---

本校の取組

◎これまでの取組み

(1)「二小 伸びる子 10の力」

「生活をつくる力」・・・早寝・早起き・朝ごはん。身の回りの整理・整頓をしよう。時間を守ろう（5分前行動をしよう）

「学ぶ力」・・・前の日に自分で学習の用意をしよう。目と心と身体を向けて話を聞こう。わからないことは、聞いたり調べたりしよう。読書をしよう。

「社会力（なかよくする力）」・・・みんなにあいさつをしよう。思いやりのある言い方をしよう。友だちの良いところを見つけよう。

を目標に設定し、学校全体で取り組んでいる。

家庭の協力もあり、100%に迫る児童がほぼ毎朝の朝ご飯を食べて登校してくる。また、児童朝礼では、全児童が予鈴前に集合し、私語のない状態で児童朝礼を始められるようになってきた。

(2) 研究主題と研究体制

本校では、「言葉を大切にし、自ら考え、自ら表現し、伝え合う子どもを育てるー学びを深めるために人の意見に耳を傾け、自分の意見を見つめなおすー」を研究主題に、全ての教科の中で「話し合い活動」を取り入れている。また、児童の発言に対して一歩掘り下げた発問を教師側が投げかけることで、児童の思考を深めていくような授業展開を目指している。授業での話し合い活動や思考の掘り下げを通して、各教科の目標達成に迫り、その中で児童が豊かな人間関係を築いていくことを目指して研究を進めている。児童の成長や実態に合わせ、自分の思いや考えを自分の言葉で伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりする活動を多く取り入れている。さまざまな活動を通し、互いの立場や考えを尊重したり、場に応じて適切に表現したりして、言語能力だけでなく豊かな人間関係を育むことを目指して取り組んでいる。

(3) 少人数・習熟度別指導

算数科の少人数指導や習熟度別指導は、「①児童一人ひとりの特性を理解し、個に応じた指導を行い、基礎・基本の定着をはかる。②つまずきの克服や学習意欲の向上につながるように、授業方法や授業体制を工夫し、自ら学び自ら考える力を育てる。」ことを目標にしている。

今年度、本校では第3～6学年の算数科において、単元ごとに習熟度別少人数分割授業と単純分割少人数授業を選択して行っている。学力を高めるために話し合い活動を多く設定したり、教材を工夫したりして、より細やかな指導を行っている。また、単元の学習計画、学習進度については、学年・学級担任と少人数担当教員とで、綿密な打ち合わせを行いながら指導を進めている。

(4) 校内学力テスト

7月と11月に本校で作成したB問題様式の「校内学力テスト」を第3学年から第6学年の児童に実施している。「校内学力テスト」の実施後は、分析を行い、本校の取り組みの成果と課題の資料としている。また、学期末には期末のまとめテストの分析も行い、そこから浮かび上がってきた課題について研究推進部会で取り上げ、児童の実態にあった指導体制・指導内容等について意見交換を行い、より効果的な学習指導が進められるよう取り組んでいる。

◎これからの取組み

国語科においては、読書の習慣について課題があること、長文の問題の正答率が低いことから、引き続き読書指導を行っていく。また、辞典の活用を随所に取り入れたり、語彙力を高めたりするとともに、多様な表現の仕方に興味を持たせる指導を行う。

毎年、記述式の問題の正答率が低い傾向があるので、授業の中で選んだ答えの理由を文章で書いたり、自分の考えたことを文章で書いたりして、考えを書く力をつけていく必要がある。例えば、話し合いや討論の場で発言内容の中から中心となる考えを聞き取り、理由や根拠などを短い言葉でメモなどに書き

留めるような活動や、たくさんの情報の中から必要な情報を取り出し、その情報を分類したり関係付けたりする中で分かったことや自分が考えたことを書く活動などを増やしていきたい。

また、4～6年生では学期に一度「書く」ことに関するテストを行っている。そのテストの結果を分析し、本校の課題を職員が共通理解した上で日々の指導にいかしている。12月に実施する同テストにおいて、その成果が出るよう、引き続き指導を行っていく。

「話すこと・聞くこと」では、授業の中でグループでの話し合い活動を進めていくとき、司会の役割を理解した上で、立場や意図を捉えながら話し合いの観点を整理する指導を充実させていきたい。また、にっこ二小タイムなどの年間行事を通じて、児童らがより積極的に企画について考えたり、進行の方法を考えたりしていくような活動の場を与えていきたい。

算数科においては、「基礎学力の定着」「応用問題への取り組み」の二つの観点から、週に二日朝学習の時間を設けて取り組んでいる。基礎学力の定着のために基本的な四則の問題を週に二日行い、応用問題への取り組みのために月に一度B問題への取り組みを行っている。また、習熟度別分割学習の際には、じっくりコースの児童には基礎の練習プリントを、どんどんコースの児童には毎時の課題の後に取り組めるB問題プリントを準備し、児童の実態に合わせた学力の向上に取り組んでいる。

7月に実施した「校内学力テスト」の分析結果や期末のまとめテストの分析結果についても校内で共有し、本校の課題を職員が共通理解した上で日々の指導にいかしている。12月に実施する同テストや期末のまとめテストにおいて、その成果が出るよう、引き続き指導を行っていく。

基礎的な知識や技能は比較的定着しており、日々の学習の成果が出ていると考えられる。しかし、授業内に課題を把握し解決することはできても、実際に文章を読み取り、四則のうちどれを使って解決するのか、数字をどのように使って立式をするのか、と考える力にはまだまだ課題がある。算数の時間外にも様々な問題に触れる機会をつくり、立式の判断を素早くできるように学力の定着をさらにはかる必要がある。また「選択式問題」とその根拠を説明する力や自分の考えを表現する力等に課題がある。これらの課題解決に向けて、自分の考えを書く活動とともに、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、児童が自分の考えを表現する機会をより多く設定する必要がある。

それ以外にも、個々の児童の成果や課題を確実に把握するために、算数アンケートを行っていく。課題を克服するため、より言語活動を充実させ、個に応じた指導のあり方の研究を進めていく。教材研究、単元の学習計画、学習進度、児童個々の評価については、学校全体で共通理解し、研究を進めていく。

理科では、知識の量に比べると応用力がそれほど高くない。教科書を使った学習のみで終わるのではなく、実験や観察の機会を確保した上での指導に取り組んでいきたい。

実験分野においては仮説をたてたうえで実験に取り組むこと、をどの学年でも意識して取り組むようにしている。予想、仮説、結果の過程をたどることで、より深い学びと知識を獲得させたい。また、得られた結果に対しても再度考察、意見の交流をさせることで、さらに見方・考え方を深めさせるような指導を行っていく。

また、昆虫や草花の様子を観察するような機会を多く設け、自分たちの身近な事象に対する理科的な見方・考え方について育てていくような指導を行っていく。

理科においても言語活動を重視した指導を行っている。実験や観察を通じて分かったことは、ワークシートにまとめたり、意見の交流をしたりして、体験的に知識の獲得ができるような活動の場を与えていきたい。